

バリデーション審査結果等の概要

平成 22 年 5 月 25 日
気候変動対策認証センター

(1) プロジェクトの概要

プロジェクト名	鳥取県芦津財産区による森林整備活動を用いた温室効果ガス排出削減事業 ---芦津の森 いきいき木こりプロジェクト---						
申請受理日	2010年3月17日						
プロジェクト代表事業者	芦津財産区						
プロジェクト事業者	NPO法人因幡の山と里						
プロジェクト参加者							
オフセット・クレジット (J-VER) 取得予定者	NPO法人因幡の山と里						
プロジェクト概要	<p>鳥取県八頭郡智頭町大字芦津の芦津財産区有林を持続的に管理するため、間伐が必要な人工林を適期に間伐し、健全な水源かん養機能・山地災害防止機能を維持するとともに、光合成による二酸化炭素の吸収を促進する。間伐した森林の二酸化炭素吸収量について、オフセットクレジット(J-VER) を取得・販売し、その追加的資金により、次のことを実施する。</p> <p>第一に、芦津財産区の住民を交えて間伐、間伐材の搬出、作業道の整備などを進める。</p> <p>第二に、都市部の人々を芦津財産区有林に招き、植林・間伐などの体験を通して山に目を向けてもらう。</p> <p>第三に、鳥取環境大学と提携し、学生が林業や山村について広く学び、体験できる機会を提供する。</p> <p>第四に、財産区有林内に森林セラピーロードを設け、県内外の人に明るく開放的な森林を体感してもらう。</p> <p>また、本プロジェクトは、住民発の活動として全国のモデルケースとなるものであり、地元集落住民は、「自分たちの山は自分たちで守る」という意識を強く持ち、積極的に森林整備（植林、下刈り、間伐、作業道開設による低コストな木材搬出等）を行っている。このような林業経営に対して、平成 18 年には林野庁長官賞を授与されている。</p>						
プロジェクト期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
クレジット期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
想定吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	543	537	708	826	1,002	3,616

ポジティブリスト	No. R. 001
方法論	JRAM 001 (森林経営活動によるCO2吸収量の増大(間伐促進型プロジェクト)に関する方法論)

(2) 審査結果

※審査内容におけるアルファベットは申請書、ローマ数字はモニタリングプランにおけるセクションをしている。

審査内容	バリデーションチームの審査結果
プロジェクト情報 (A・B)	申請書及び付属資料の文書レビュー、各要員に対するインタビュー、現地踏査を通じ、申請書に記載されたプロジェクト情報について検討を行った結果、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット (J-VER) 制度に依拠して作成されていることを確認した。
適格性要件 (C)	<p>申請書に記述された方法論は、ポジティブリストにおいて要求される適格性要件の全てを満たしていることを、申請書及び付属資料の文書レビューにより確認し、各要員へのインタビュー及び現地踏査により裏づけを得た。</p> <p>条件 1: プロジェクト実施地が、森林法第 5 条又は第 7 条の 2 に定める森林であるかについては、森林施業計画書 (H21. 3. 25 智頭町大字芦津財産区) により、プロジェクト実施地が森林施業計画書に記載されている事を確認し、鳥取県、智頭町提供の森林基本図によって対象森林と「資料 3-1 芦津財産区 年度別間伐区域」が合致していることを確認した。また、森林施業計画書は、施業計画認定証 (認定番号 20-7) によって、智頭町森林整備計画に適合するものとして認定されている事を確認した。</p> <p>条件 2: プロジェクト実施地において行われる施業は条件を満たす間伐であり、妥当と判断される。また、森林施業計画書により下記の事項を確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林施業計画書において、プロジェクト実施地は、「長伐期施業森林」に指定されている。 対象森林を含む森林全体について、転用及び主伐は計画されていない。 間伐期についても、森林施業計画書により、2007 年 4 月 1 日以降に実施、もしくは計画されている。 <p>条件 3: プロジェクト実施地が、以下のとおり、持続的な森林経営の対象地であることが証明可能であり、妥当と判断される。</p> <p>森林施業計画書は、施業計画認定証 (認定番号 20-7) によって、智頭町森林整備計画に適合するものとして認定されている事を確認した。また、財産区は下記のような方針で所有森林全体を管理している事を聞き取った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 財産区では森林管理について代表議員の間で常に協議し、森林の多面的な価値の向上に努めている事 森林資源管理では、財産区にある天然の針広混交林 (財産区の面積の約 45%) を保全し (本プロジェクト対象外)、溪畔部にはミズナラやトチノキ、ホオノキ、ヤナギなど落葉広葉樹林を保全している事 人工林では皆伐を行わず、表土の保全や長径木の育成に努めている事

	<ul style="list-style-type: none"> ● 造林の際には地元の沖の山スギ（天然スギ）由来の苗木（赤挿し苗）を用いている事 ● 環境保全や保健休養機能の発揮において、智頭町や地元大学との協働により、森林セラピーロードの整備（遊歩道整備）や環境学習、研究のフィールド提供など森林環境を活用した様々な活動の場の整備に取り組んでいる事
排出量・吸収量算定（Ⅰ・Ⅱ）	モニタリング及び付属資料の文書レビュー、各要員に対するインタビュー、現地踏査を通じ、モニタリングプランに示されている吸収量算定式及び結果は、方法論及びモニタリング方法ガイドラインに準拠しており、重要性の点から適正に表示されていることを確認した。
モニタリング計画（Ⅲ～Ⅵ）	モニタリング及び付属資料の文書レビュー、各要員に対するインタビュー、現地踏査を通じ、モニタリングプランに示されているモニタリング計画は、方法論及びモニタリング方法ガイドラインに準拠しており、重要性の点から適正に表示されていることを確認した。
その他の論点	申請書及び付属資料の文書レビュー、各要員に対するインタビュー、現地踏査を通じ、申請書に記載された関連する許認可及び関連法令等の遵守状況などのその他の事項について、重要性の観点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを
認証運営委員会への推奨	バリデーションチームは、デスクレビュー、現地審査、インタビューによって、本プロジェクトが、オフセット・クレジット（J-VER）制度、ポジティブリストの適格性基準、方法論に依拠して作成されていることを確認し、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による登録を行うことを推奨する。

(3) パブリックコメントの概要

該当箇所	ご意見
意見募集期間中にいただいたご意見はなかった。	

(4) 認証運営委員会の結果

第14回オフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会（平成22年5月25日）においてプロジェクト登録が承認された。